

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 5 部門第 2 区分
 【発行日】 平成 19 年 11 月 22 日 (2007.11.22)

【公開番号】 特開 2006-112545 (P2006-112545A)
 【公開日】 平成 18 年 4 月 27 日 (2006.4.27)
 【年通号数】 公開・登録公報 2006-017
 【出願番号】 特願 2004-301541 (P2004-301541)
 【国際特許分類】

F 1 6 C 17/10 (2006.01)

F 1 6 C 33/20 (2006.01)

H 0 2 K 7/11 (2006.01)

F 1 6 D 27/108 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 17/10 Z

F 1 6 C 33/20 Z

H 0 2 K 7/11

F 1 6 D 27/10 3 2 1 Z

【手続補正書】
 【提出日】 平成 19 年 10 月 2 日 (2007.10.2)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 0 0 0 8
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 8】

以下、本発明の実施の形態を、好適な実施の形態として例示するモータの軸受構造を図面に基づいて詳細に説明する。図 1 はモータの軸受構造の半部断面構成図、図 2 は軸の連結状態のモータの軸受構造を示す要部断面である。図に示すように、1 はクラッチ一体型モータであって、該クラッチ一体型モータ 1 は、ワーク側となる電磁クラッチ機構 2 とステッピングモータ 3 (以下端にモータという) をそれぞれ形成する鉄、磁性ステンレス等よりなるヨーク 2 1 および 3 1 と、該ヨーク 2 1 と 3 1 の区画中央および両側に配設されたフランジ 2 2 および 3 2、3 2 の各々中心に設けられた軸受 2 3 および 3 3 1、3 3 2 と、該軸受 2 3 および 3 3 1、3 3 2 にそれぞれ回転可能に支承される回転軸 2 4 およびモータ軸 3 4 を有する回転子 3 4 a とを備え、前記ヨーク 2 1 および 3 1 内には、その内壁に設けられた樹脂製のコイルボビン 2 5 および 3 5、3 5 に各々巻着されたコイル 2 5 a および 3 5 a、3 5 a が配設されると共に、クラッチ機構 2 を構成する一対のクラッチ片 2 6 と 3 6 が接合／離間するスライド間隙 S を存して各々回転軸 2 4 とモータ軸 3 4 の端部に対向配設されている。なお、これら構成は、特許文献 1 に開示されている如くクラッチ一体型モータの基本構成として概略公知の技術である。また、前記ワーク側の回転軸 2 4 の先端には図示しない弁体が設けられており、このクラッチ一体型モータ 1 は、空調等のガス流路を閉鎖・開放することで流量制御を行うような流量制御装置として用いられる。